

一季皆米渡りに有之、其外皆米渡りは一切無之事、
〔殿居囊〕武家年中行事

正月下旬春御借米張紙出ル、

四月下旬夏御借米張紙出ル、

九月下旬冬御切米張紙出ル、

〔憲教類典五ノ十御藏前〕寛保元辛酉年正月廿七日

當酉年春御借米貳百俵有餘以下共、分限高四分一、御役料は三分一米、三分二金ニ而可相渡候、

一御奉公勤候百俵以下は、二月朔日カ同四日迄、同百俵有餘は、二月五日カ同八日迄、

一御奉公不勤百俵以下は、二月九日カ同十一日迄、

一同百俵有餘は、二月十二日カ同十四日迄、

一御役料は、貳百俵有餘以下共、二月十五日より同十六日迄、

右日限之通、黒部善右衛門、神尾忠藏裏判取之、米金請取候儀は、二月五日より三月廿九日迄可限之、但米金受取方之儀も、右ヶ條ニ准じ可相心得、直段之儀は、百俵ニ付四拾七兩之積りたるべき事、

以上

西 正月廿七日〇中略

天明三癸卯年十二月二日

石見守殿御渡

御目付江

當冬御切米三分二金、三分一米渡之處、關東北國筋不作ニ付、不勤百俵以上以下共、御切米、右三分一米渡之内、半分米、半分ハ張紙之直段四十六兩之二割増、五十五兩之積りを以、金渡ニ候間、可被